

「ライオン」

瀧井 碧 (たきい あお) 4歳

姫路みのり保育園
(兵庫教区)

先生は、一方的にライオンの特徴を押しつけないよう、こども同士が気づきを共有しながらイメージを膨らませていけるようにと、たくさん対話できる場を設けたそうです。そのお陰で、お話をしながら、どんどんとイメージが明確になっていきました。概念的で固定的な「ライオン像」ではなく、オスにはたてがみがありメスにはないこと、大人には鋭い爪があること、お肉が大好きなことなど、自分なりのイメージを持ってライオンの仲良し家族を描いています。

右上の大きなライオンにはたてがみが描かれていますからオスでしょう。中くらいの大きさで描かれているライオンにはたてがみはありませんからメスでしょう。右下には小さく描かれているのはこどものライオンでしょうか。こうして見てみると碧さんから直接お話を聞いたわけではありませんが、この3匹は家族のように見えますね。優しい笑顔のライオンさんを描きながら、自分の家族と重ね合わせているのでしょう。

●表紙のことば●



おおはし いさお
大橋 功

岡山大学学術研究院
教育学域